

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション 人としての思いやり
○多様な児童生徒に対して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図りながら、「子ども主体の学び」全教室展開に向けた取組を進めている。 ○学年交流等、望ましい集団づくりに向けた教育活動を進め、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める工夫をしている。 ●すべての子どもたちが「学びが面白い」と実感し、安心して学ぶ子どもの居場所づくりの取組を進めてほしい。	○自分で目標を立て、友達と学び合いながら「考える・選ぶ・決める」経験を積み重ねることにより、「学びが面白い」と実感する児童生徒が増えてきた。 ○自分たちが学校を創る主体となり、試行錯誤しながら創意工夫することを楽しむ児童生徒の姿が見られる。 ●安心して学校生活を送ることができる環境づくりに継続して取り組んでほしい。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	共に学び、共に支えながら未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒 ○ 児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。 ○ 児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高めるよう支援する。 ○ 校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。

III 自 校

ミッション		育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)		自他の良さを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒			
社会の中で活躍でき、貢献できる社会人となるための基礎力の育成				学びに向かう力	コミュニケーション力	課題設定・解決力	
学校教育目標		めざす子ども像	1 年	「まずはやってみようかな」「チャレンジしようかな」と思う。	時と場に応じたあいさつができる。	課題であることを読み取ることができる。	
よりよく生きる力の育成 ～主体・自律・奉仕～			2 年	やりたいことについて、他者の考えをもとに広げることができる。	礼をつくしたあいさつができる。自分のことを、他者の助言をもとに表現できる。	課題を見つけることができる。他者の助言をもとに問題を解決できる。	
現 状			3 年	新しいことを知りたいと思ったり、問題について考えたりしたいと思う。	自己表現をすることができる。友人と適切な関係を持ち、おりあいをつけることができる。	課題を見つけるだけでなく、適切にテーマを設定し自ら解決できる。	
＜生徒＞ ・校内にあるばら園の清掃活動など奉仕活動に積極的に参加する生徒が増えた。「ホラソイ活動へ参加できた」肯定評価 37.3%→40.1%【生徒アンケートより】 ・「授業で、新しいことを知ったり問題を考えたりすることが楽しい。」肯定評価 80.7%【「第三次福山市教育振興基本計画」指標最終アンケートより】 ・「授業で、友だちの考えを聞いたり友だちと話し合ったりすることが楽しい。」肯定評価 89.1%【「第三次福山市教育振興基本計画」指標最終アンケートより】 ＜教職員＞ ・「仕事にやりがいを感じている」肯定評価 88.0%→92.6%【「第三次福山市教育振興基本計画」指標最終アンケートより】 ・「学校内の活動について、失敗を恐れずに挑戦することができる」肯定評価 80.0%→85.2%【「第三次福山市教育振興基本計画」指標最終アンケートより】		教科等	主体的に学ぶ生徒の育成～繋がりのある学びを目指して～				
		研究	主題・内容等	義務教育9年間を見通した上で「何のために学ぶのか」「何を学ぶのか」を明確にした単元・授業づくりを行う。 ・校区合同で教材研究・授業参観、交流をする中で、授業改善を図る。			
		めざす授業の姿		他教科、他学年、日常生活等とのつながりを、教師も生徒も実感し、教科のおもしろさを感じることができる授業。			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 神辺中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力セ 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
3	1 学習者主体の 学びを実現す る。	1	継 続	・他教科、他学年、 日常生活等との つながりを、教師 も生徒も実感し、 教科のおもしろ さを感じることが できる授業の実施。	・「何のために学 ぶのか」「何を 学ぶのか」を意 識し、縦構造・ 日常生活との つながりが分 かる単元・授業 計画の作成を 行う。 ・カリキュラムマ ップを意識し、 他教科・他学年 とのつながり を常に意識す る。 ・全教科において 既習事項を使 った思考問題 を1問作成し、 定期試験に出 題する。	・【生徒】「学んだこ とを日常生活に いかせると感じ ている」肯定的回 答70%以上 ・【教師】「何のため に学ぶのか」「何 を学ぶのか」を明 確にした単元・授 業づくり肯定的 回答90%以上 ・定期試験で既習 事項を含んだ思 考問題の通過率 (準正答を含む) 5教科平均5 5%	・「学んだことを日 常生活にいかせ ると感じている」83%(生徒ア ンケートより) ・「何のために学ぶ のか」「何を学ぶの か」を明確にした単 元・授業づくり よくあてはまる3.7% あてはまる55.6% どちらかというあて はまる40.7% ・定期試験で既習 事項を含んだ思 考問題の通過率 5教科平均 66%(全教科平 均64.8%)	3	3	指標は上回ってい るが、解答の具体 が十分でない。 学んだことを活か したり、実生活に 結び付けて考え たりする場面を授業 や評価の中で設定 する。「学んだこと が日常生活とつな がっていますか」 肯定的回答75% 指標は超えている が、正答のみでみ ると41%である。 思考問題への抵抗 を低減するために キーワードを提示 し、考えを整理し てまとめる学習を 日頃から行う。実 態に応じて、単元 ごとに小テストを 行うなど知識の定 着をはかる。(全校 で)	・「学んだことが日 常生活とつながっ ていますか」74%(生 徒アンケートより) ・「何のために学ぶ のか」「何を学ぶの か」を明確にした単 元・授業づくり よくあてはまる6.1% あてはまる63.6% どちらかというあて はまる27.3% (教師アンケートより) ・定期試験で既習事 項を含んだ思考問題 の通過率 5教科平均63% 9教科平均64% (準正答を含む)	3	3	3	「学んだことを 日常生活にいか せている」から 「つながってい ますか」と聞く ことにより、以 前と比べて具体 の回答が多く見 受けられた。定 期試験にも日常 生活とのつなが りのある問題を 出すことで、生 徒も教員も教科 の面白さを感じ ることができて いる。 教師は、単元テ ストや小テスト での学習だけで なく、自分の思 考をまとめ、伝 えるなど表現す る場を授業の中 で仕組む必要が ある。 生徒が思考する ベースとなる基 礎力をつけるた めの取組も行っ ていく。

3	2	2	継続	・全教室で「安心・安全な場」を作り、長期欠席生徒数を減少させる。 ・生徒の自己指導能力を高める。 ・生徒会を中心とした生徒主体の活動を設定していく。	・「時を守り、場を清め、礼を尽くす」を合言葉に、ルールやマナーの意味や意図、必要性についての指導を日々行っていく。 ・週に一度の生徒指導担当者会（管理職・養護教諭を含む）を行い、生徒指導に関する指導の方向性の確認を行う。 ・生徒会担当を中心に、計画的に委員会活動等を行っていく。	・「ルールやマナーの意味や意図、必要性について理解できている。」の肯定的な回答を90%以上。 ・「場に応じた行動を取ることができる」の肯定的な回答を90%以上。 ・「委員会活動や係活動、給食当番、掃除などに積極的に参加している」の肯定的な回答を90%以上。	・全校集会や学年集会などの場面で、様々な事例を交えながら、ルールやマナーについて指導を行っている。94% ・週に一度の生徒指導担当者会を行い、生徒指導に関する方向性を確認している。「場に応じた行動」91% ・生徒会を中心として、体育大会の種目を検討したり、体育大会運営に係る役割分担などを行い、生徒が運営する体育大会を実施しようとしている。「係、委員会活動への参加」93%	3	3	- 引き続き、全校集会や学年集会、生徒集会など、生徒が集まる場面で、ルールやマナーについての指導を行っていく。 - 引き続き、定期的に生徒指導担当者会をもち、指導の方向性を確認していく。 - 生徒会を中心としたいじめストップ集会や各委員会の活動など、生徒による自治的な活動の充実を目指していく。	・「ルールやマナーの意味や意図、必要性について理解できている。」95% (生徒アンケートより) ・「場に応じた行動を取ることができる」89% (生徒アンケートより) ・「委員会活動や係活動、給食当番、掃除などに積極的に参加している」91% (生徒アンケートより)	3	3	3	・アンケート項目を「理解できている」から「行動に移すことができる」に変えて、行動面で認知していく。 ・「場」を細分化し、「授業」と「休憩時間」と「集会や儀式など」の場面ごとに行動指標を変える。 ・学級経営について研修を行い、生徒が主体的に取り組めるような仕掛けができるようにしていく。
7	3	3	見直し	・開かれた学校を目指し、確かな情報を公開できるよう取り組む。 ・不祥事を起こさないよう取り組む。 ・地域について知り、地域を大切に思う生徒を育成する。	・ホームページを更新したり、学年学級通信等で情報を公開したりする。 ・不祥事防止委員会を活用して、内容について職員へ周知を行う。 ・地域の方とかわる機会を設けて、良い所や課題や改善点を見つけられるような学びをつくる。	・保護者アンケートから、「学校の様子がよくわかる」と回答する保護者の割合を昨年度以上。(昨年度74%) ・不祥事防止委員会を週に1回程度開催し、長期休業中には全教職員で研修を行う。 ・「地域について知り、地域を大切に思っている」生徒の割合を90%以上。	・保護者アンケートから、「学校の様子がよくわかる」74% ・不祥事防止委員会について、月1回程度、各学年が担当し開催することができた。 ・「地域について知り、地域を大切に思っている」83%	3	3	・授業公開や情報発信を通して開かれた学校をめざす。特にPTA活動と連携し、体験型の取組を行う。 ・定期的に不祥事防止研修を担当が開催することで当事者意識を持つことができていたので継続する。 ・地域の方へ「登下校見守りボラ	・「学校の様子がよくわかる」75.8% (保護者アンケートより) ・ホームページ更新のお知らせが少なかった。PTAの行事について、図書館を開放し保護者地域の方へ知らせて開催した。30名ほど集まり好評だった。 ・9月に交通ルール、11月にアルコールチェック、12月に県教委懲戒処分指針、2月に服務規律についての研修を行った。	3	3	3	・PTAから「もう少し保護者同士が顔を合わせて話ができる機会があればうれしい」という意見があった。参観日などを活用して対面で話ができる機会を創出していく。 ・不祥事防止委員会を通して、教職員に日々気を付けていくことを確認していく。

										ンティア」の募集をかけたところ3名参加していただいている。生徒とのかかわりをもちながら進める。	・「地域について知り、地域を大切に思っている」82.1% (生徒アンケートより) 吹奏楽部が地域の祭りで演奏会を実施したり、野球部が学校周辺の掃除を行うなど、部活動単位で地域貢献活動を行っている。				・現在部活動単位で行っている奉仕活動を、生徒会も含めて企画し取組をすすめていく。総合的な学習の時間で1年生から3年生までの地域一貫して「地域とつながる」ことを意識したカリキュラムを意識し作成する。
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。